

作業学習研究部会研究報告

テーマ「生徒の実態に即した作業学習」

1 はじめに

学校においては、感染症対策を徹底しているため学校での教育活動にさまざまな制約があり、工夫して取り組んでいるところである。

研究のテーマは継続して「生徒の実態に即した作業学習」として進めているとことである。

今年度は集合型の研究部会を開催し、第2回の部会では「埼玉県立職業能力開発センター」では知的障害者の自立に向けて、職場における基本的な技能を身につける訓練を見学し研修を実施した。第3回の部会では各学校の作業学習における課題や工夫について事前アンケートを実施しグループ協議を実施し情報を共有したことは、コロナ禍で各学校の直接的なつながりが減少していたため有意義な取り組みとなった。

2 活動実績

(1) 第2回研究部会 見学会より

実施日 令和4年8月26日(金)

内容 見学会 「障害者職業訓練について」

見学会内容

- ・埼玉県立職業能力開発センターの紹介
(サービス実務科・職域開発科)
- ・職業訓練及び施設の見学

○職業能力開発センター概要について

- ・埼玉県立職業能力開発センターは全国240校の公共職業能力開発施設等の1つで、一般校における障害者職業訓練を実施している。



◆サービス実務科

平成24年度から療育手帳を有する知的障害者への職業訓練を実施。

1年のコースで事務系、サービス系、介護系の訓練を実施。職場における基本的な技能及び社会人マナーを身に付け就労を目指す。

◆職域開発科

平成29年度から精神・発達障害者への職業訓練を実施。

半年のコースで事務系、サービス系、介護系の訓練を実施。併せて自己理解やセルフマネジメント力を身に付け就労を目指す。

○各科視察、訓練内容紹介（サービス実務科）

見学は2グループに分かれて担当者からの案内と説明を受けながら各科の訓練現場、訓練施設の視察を行った。教室の他、実習で使用できる特色ある実習室が4つあり訓練生にとって充実した訓練が実施できる環境が整っていた。

当日に行われていた訓練はパソコン操作、簿記会計の現場を視察することができた。それぞれの訓練生が活動に取り組みやすい環境設定、職員の接し方が印象的だった。視察で訪れた際に、パソコン操作の場では職員の方が明るくやり取りをして、訓練生が報告や質問をしやすい雰囲気が構築されていた。なおかつ、操作自体には集中して静かに取り組めるよう時間を確保していて学びやすい状況が整えられていた。簿記会計の現場では、パーティションを使用して活動に集中しやすい環境が整えられ訓練が行われていた。



「ピッキング」

ワークサンプル幕張版（MWS）を使った訓練は、リストに記載してある品物と個数を正確にピッキングするため間違えないために形だけでなく記号や番号を確かめチェックする基本を身につける。



「清掃」



埼玉県ビルメンテナンス協会と連携し、講師による清掃の基本を身につけている。拭き掃除では雑巾のたたみ方や持ち方、拭き方を身につける。掃き掃除では自在ほうきを、水モップやダストクロスモップの基本も身につけられるようにしている。トイレ清掃や窓清掃を実習する。

「サービス」

実習室内に食品や雑貨のサンプルが用意され商品棚への補充や接客などについて学ぶ他、台車や荷物運搬用カートの操作についても身につけられるようになっていた。訓練を始める時に、接客に必要な声出しを行い、品出しの練習時も接客についての対応など身につけている。



「介護」

介護補助では、利用者の方との活動を想定し折り紙やクラフトペーパーを使った作品作りをした作品が展示されていた。ベッドメイキングでは介護用ベッドにシーツを敷く

手順を学ぶが、手順を覚えシーツにシワができないよう力加減を調整することに苦労す



る訓練生もいるが積み重ねを大切にしている。高齢者の体験や実習を通して相手のことを考え介護補助について学んでいる。

「その他」

就職を支援するカリキュラムも用意されておりキャリアカウンセラーによる授業もあり、就職する上での自己を見つめることやビジネスマナー・面接練習・履歴書の書き方などのサポートもある。また、臨床心理士による訓練生の面談なども実施しており、1年間という期間ではあるが就労に向けて多くのことを身につけられるカリキュラムが用意されていた。

「就職について」

入校時に希望する職種と訓練をする中で訓練生の適性などを含め、訓練生と保護者との面談を大切にしている。入校時は事務系の職種を希望する方も少なくないが、パソコンを使う業務などは入力だけでなく、総合的な力を求められることも多い。そのため、面談で進路の方向性を決めることを行っている。

9月以降は各地区ハローワーク主催の合同面接会や職場面談から、現場実習を経て就職を目指すことは、特別支援学校で行っている進路指導と同じ部分もある。

3 おわりに

こうした個に応じた配慮をしやすい人数規模と充実した施設設備が学びに効果的であることを、サービス実務科では過去3年就職率100パーセントという高い数値につながっていることを改めて実感する視察となった。

意見交換においてはタイピングやパソコンソフトの活用等の事務系の能力の重要性が主張されていた。訓練生や特別支援学校の生徒の個性によっては、事務系の能力が社会現場で貴重な人材として重宝される可能性があると期待されている。

今回の研修で充実した施設設備の有効性、社会で必要とされる人材を育てるための教育課程の重要性を再認識した。今後の埼特研作業部会では、これらを特別支援教育現場で充実させるための工夫を各校の実践からより深く学びたい。

特別支援学校の作業学習は製品づくりをはじめ、モノづくりを通して学ぶものが多い。時代の変化と共に企業に求められる人材は変化してきている。どの作業種においても、生徒に何を身につけさせるのか「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」など明確にして取り組むことが必要である。